



TITLE:

天保年間太陰之圖

AUTHOR(S):

CITATION:

天保年間太陰之圖. 天界 1931, 11(123): 337-340

ISSUE DATE:

1931-06-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161688>

RIGHT:

天保年間太陰之圖

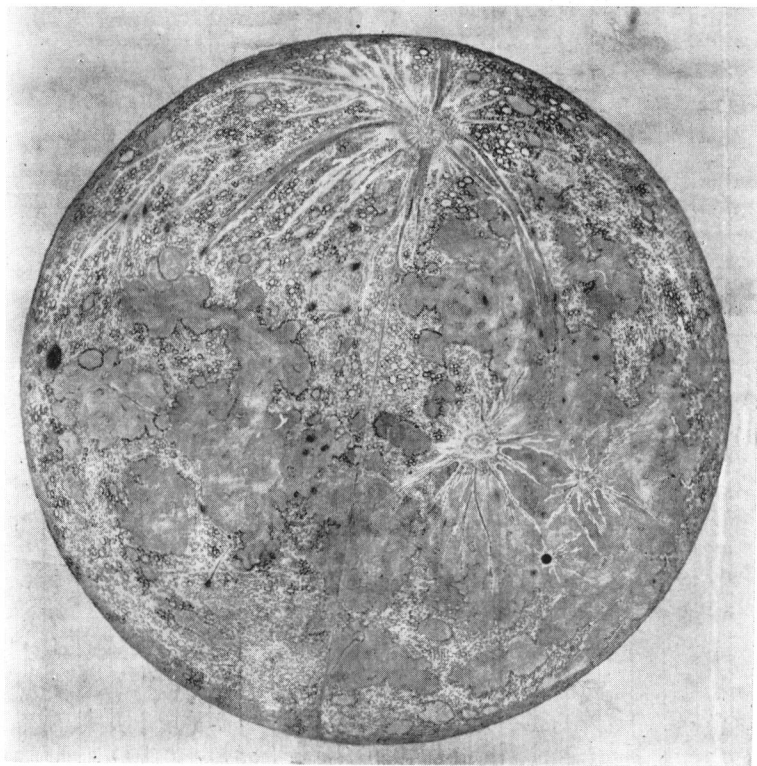
昨秋十月九州の池田氏から、山本會長に宛て、次に掲げた珍重な寫眞に添えて下の様な通信があつた。天保時代にこんな立派な月面圖が繪かれて居ると思うと、一寸、意外な氣がするのではないか !!

天文同好會が創立滿十ヶ年を迎へまことに御同慶に存じます。

さて、一昨秋、御來熊の時に、九州新聞社樓上で御講演の後に御目にかへました太陰圖の寫眞複製を、私は一枚是非貰ひたいと申込んで置きましたが、なかなか呉れませぬので其後高木君に會ふ度に催促して居りましたが、今だに寫眞が來ないところを見ると、多分出來損つたのだらうと想像します。先生の方へも恐らく御同様かと存じます。それで今度の十八日の展覽會に間に合ふやうにと、新聞社から聞いた阿蘇高杏の高橋某といふのを手懸りに高杏小學校宛に該圖の現所在搜索を依頼しました。幸に十一日に至つて所有者が分つた通知に接しましたので、十二日早速出掛けて高杏小學校長岩下仁氏同じく實業公民學校教諭本田他人長兩氏の御盡力により複寫の目的で借り受ける事が出來ました。所有者の氏名は島田幾次郎と申し、明治四十一年に滋賀縣下に在住の時、手に入れたとの事です。

今日複寫原板と印書とが出來ましたから原板二枚と印書三枚を客車便で京大理學部天文學教室貴名宛御送り致します。若し間に合へば此の原板でプロハイドの全紙に御引延しになれば、月面圖丈は實物大に出來ます。(徑39cm)

若し御研究の結果眞に學術上貴重な資料といふ事が分りましたら、保管の方法に就いても考へねばならぬと存じます。今の所有者の住宅は田舎町で、可なり家達ですから火災等の心配もあり、如何しても大學の有に歸するのが一番安全と考へます。そして、それは必ずしも六ヶしい事ではなさうに思へますから御内意があれば交渉の任に當つても宜しうございます。新聞紙上で無闇に書き立てると何かと支障が起りますから落付くべき處に落付く迄は一切何事も發表せぬ心算です。貴方も其邊御含置き下さる様、御願致します。先は取急ぎ右御報申上げます。池田一幸



太 陰 の 圖 (天 保 時 代)

紀正民畫 島田幾次郎藏

太陰距地高遠古人不能明計量也其說有異同又遠近之度數及因其行之
遲速所見有大小月中有物不知為何物也徐祥說謂恨才省瞻宜矣或曰
月中有兔又曰有蟾蜍又曰月中有物布山河之影其空處為海影又曰月中
有桂樹娥奔月宮其說終不可辨夫也文化癸酉余之先考借星鏡以
窺之顧余命圖之仲秋之望天章報晴月出皓朗為拘野明是可圖特也忽下
陽迹中設鏡寫之如佛侍起似激波走水雪解散玉露點綴倘有仙翁翻月前
却係奇觀兩眼皎潔此骨爽然自然覺清涼以是考之掄中皆為水精乎今茲
錄只由以為家藏唯是廣大徐遠不得速而審也隨其所能見寫之庶矣聊賦詩
鏡中輪影散冷露散終二筆及跡毫拙冷隴天巧文

天保乙未盛夏紀正氏識





「太陰の圖」の前に端座する

島田幾次郎氏